

両角友成議員の6月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの[議会の様子](#)からご覧いただけます。

「オンライン資格確認システム導入」に対する県の姿勢について

両角 現在の保険証のシステムで問題ないと思うが、マイナンバーカードを保険証として使う必要性があるのか。特に医療情報は究極の個人情報であり、テレビCMまでして導入を進める国の姿勢に違和感があるが、県としての受け止めは。

知事 このシステムを使うことにより、本人同意を前提として過去の服薬情報や健診結果などの正確な情報に基づいて総合的な診療を受けられる。またデジタル化により医療従事者の業務の効率化が図られることなどが期待されていると受け止めている。

両角 個人情報の漏洩が相次いだり、カード更新にかかる日数の間に病院受診の必要が出た場合についても総務省は今後検討すると無責任な態度だ。導入ありきではないか。



中小企業の経営支援について

両角 物価高騰により多くの事業者が経営難を訴えている。国の緊急経済対策の補正予算の枠内だけでなく、県としての独自予算を組んでの緊急の支援策、また今後の物価高騰対策の見通しについても併せて伺う。

知事 独自には中小企業融資制度資金の貸付限度額を引き上げて資金繰りを支援していく。国の中小企業等事業再構築促進事業などに対する独自の上乗せ補助や、省エネ・再エネ設備の導入経費の助成などを行う。今後とも価格高騰の影響は継続すると予想されるので、県民の暮らし、産業・経済への影響をしっかりと把握し必要な対策を講じていく。

飼料価格の高騰に対する県の施策について

両角 国内の食料生産に欠かせない肥料や飼料は大半は海外からの輸入であり、原油高や円安誘導も加わり、飼料価格は高騰し、畜産農家は非常に厳しい状況にある。県では飼料価格高騰対策を行う予定だが、畜産農家全体に行き渡るか心配。大変な状況下で県内畜産をどのように守っていくか、今後の見通しも含めた県の施策は。

農政部長 飼料価格高騰への取組を進めるほか、スマート畜産技術の導入や競争力を持ったブランド畜産物の拡大。家畜伝染病の防疫対策の強化や安心安全な畜産物の生産への強化などの取組を総合的に展開し、持続性の高い畜産の構築に努めていく。

両角 際限のない輸入自由化をストップし、食料主権を確立することを柱とする農業・食料政策を実施し農業の再生をはかるべき。

❖質問を終えて❖

国内農業に今求められるのは食料の増産による自給率の向上に大きく舵を切ることです。農業県と言われる県にその自覚があるのか疑問を持ってしまったやり取りでした。農業・食料の大切さをこれからも訴えてまいります。

